

謹んで新年のお慶びを申し上げます



奥尻町長 新村卓実

新年あけましておめでとーございます

町民の皆さまが輝かしい希望に満ちた新年を迎えられましたこと、心からお慶び申し上げます。

私が町民の皆さまの温かいご支援を頂き、奥尻町長として3期目の舵取りを担わせていただいたことから、初めての新春を迎えることができました。

町民の皆さまには、平素から町政の推進に格別のご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、4月1日には、奥尻中学校と青苗中学校が統合され、新たな奥尻中学校がスタートしました。

また、一昨年4月から町立高校としてスタートした奥尻高校においては、29年度より島外からの生徒を募集し、現在3名の島留學生が通学しております。

5月1日には、新たに障がい者や幼児などにやさしい船

内環境を整え、横揺れ防止のフィンスタビライザーなどを完備したカーフェリー「カラシネ奥尻」が就航しました。6月17日には、第4回「奥尻ムーンライトマラソン」が開催され、募集定員500名のところ、561名のエントリーがあり、535名のランナーが島内を疾走しました。

また、7・8月には「にっぽん丸」が、9月には「ばしふいっく・びいなす」がそれぞれ本島に寄港し、900名以上の乗船客が本島に上陸し、島時間を楽しんで帰船しました。

さらに、7月28日には、湯浜地区に再生可能エネルギーを活用した、地熱発電所が竣工しました。竣工式には、高橋はるみ北海道知事も出席し、テープカットなどが行われ、現在は、北海道電力に売電が行われております。

このような中、7月29日未明には、北朝鮮が大陸間弾道ミサイルを発射し、本島の北西約150キロの日本の排他的経済水域内の日本海海上に落下しました。さらに、8月29日未明にも弾道ミサイルを発射し、道南上空と襟裳岬上空を通過した後、襟裳岬沖東1,180キロの日本の排他的経済水域外の太平洋上に落下しました。

また、北朝鮮の漁業者は、

日本の排他的経済水域内である大和堆周辺において、違反操業を行っており、近年のイカなどの日本近海の資源量減少の一因にもなっています。さらに、昨年11月以降は、北朝鮮籍とみられる木造漁船が相次いで日本海沿岸に漂流・漂着しました。このような北朝鮮の行動は極めて憂慮すべき事で断じて容認できるものではなく度重なる暴挙に、強い怒りを感じております。一方国政においては、10月22日に第48回衆議院議員総選挙が行われ、政権与党が圧勝しましたが、国においても、北朝鮮の度重なる暴挙に対して、国連安保理決議に明白に違反しており、北朝鮮に厳重に抗議し、安倍首相は「日米同盟の下で高度の警戒態勢を維持し、国民の命と平和な暮らしを守り抜く」と強調しました。戦争のない対話による平和な世界となることを期待しています。

次に天皇陛下の生前退位についてであります。天皇・皇后両陛下におかれましては、未曾有の災害をもたらしました北海道南西沖地震の際に、まだ余震が続く中、被災に遭われた本町町民をお見舞いするために、行幸啓を賜りました。天皇・皇后両陛下のお見舞いによって本町町民は、大きく勇気づけられ、復興への

日本



副町長	田中敦詞
総務課長	新谷順二
地域政策課長	松川博俊
税務国保課長	阿部元大
保健福祉課長	三浦成一
建設水道課長	片石裕文
水産農林課長	小山内政悦
企業管理課長	三上郁也
発電課長	松田雅樹
青苗支所長 <small>(兼)</small>	木村孝義
環境センター所長	木村孝義
空港管理事務所長	深瀬洋治
会計管理者	安藤寛
他職員一同	一寛

輝かしい1年へのスタート 希望に満ちた「町」へ...

気持ち新たにできました。天皇・皇后両陛下には、言葉で表せないほどの感謝をしております。

また、皇室会議において、天皇陛下は来年4月30日で生前退位されるのが固まりました。退位された後は健康に留意され、いつまでもお元気で過ごされることを祈っております。

次に、今年の町政について概略であります。何点か述べたいと思います。

まず、基幹産業の漁業についてであります。漁獲量の大半を占めるイカ漁においては、ここ数年、本島周辺海域で漁場が形成されず、厳しい状況が続いております。また、ホッケ漁においても、時化が多く出漁できる日が続かないために、水揚量が回復していない現状にあります。

このような中で、北海道の日本海漁業振興緊急対策事業を活用し、「ホタテ・エゾバカ・アワビ・ウニ・ウニ籠・ナマコ養殖」事業を実施してきましたところですが、本制度は、29年度を以て終了いたしますが、30年度からは、新たな制度を北海道に要望してまいります。また、国・北海道の支援を受け、離島漁業再生支援交付金等を活用し、アワビ・ウニ・イワガキ・ナ

マコといった水産物の安定供給の確保及び漁業者が自ら島の水産物の直売所を設けるとともに、ICT(情報・通信に関する技術)を活用し、観測ブイや磯舟へのGPSの設置により、安心できる操業環境・資源管理システム等の構築を図り、水産振興の発展を目指します。一方、農業においては、今までの減反政策が終了し、新たな農業制度がスタートしますが、今後「足腰の強い」第一次産業を目指し、できる限りの支援をしていきたいと考えております。

次に主な整備事業ですが、奥尻地区の狭隘区域を解消するため、なべつるから十字街までの道道奥尻島線移転事業が終了し、いよいよ道路の拡張整備が始まります。このほかにも、道道の越波対策や長浜区間の予算増額、さらには、神威脇漁港をはじめとする各漁港や港湾整備について、国・北海道に要望してまいります。

また、地域経済への影響が非常に大きい航空自衛隊の隊員削減問題についても、隊員の維持確保について、国に強く要請してまいります。

次に、観光関連として、今年には第5回記念大会となります。ムーンライトマラソンが6月30日に開催されることとなっておりますので、例年以上の

大会にしたいと考えております。また、翌日の7月1日には、「にっぽん丸」が寄港予定であります。町民の皆さまには、今年も応援・ご協力をよろしく願います。

次に、昨年度より島留学生を受け入れておりますが、新年度においては、昨年度よりも多い留学生が見込まれているため、寄宿舎等の整備について、検討してまいりたいと思っております。

次に財政状況についてですが、平成28年度の実質公債比率は、11・5%、将来負担比率も39・0%と早期健全化となる25%、350%をそれぞれ下回っており、良好な財政状況を維持しております。しかし、町の貯金となります。財政調整基金積立金は、管内で一番低い積立となっております。今後予定されている病院など公共施設の建設には、不足しておりますので、財政規模にあった新年度予算の計画を立てなければと思っております。

結びに新しい年が町民皆様にとりまして、より良き年となりますよう、心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成三十年 元旦

奥尻町国民健康保険病院

- 院長 長竹下和良
- 副院長 柴田正
- 院長 泉里豪俊
- 歯科医長 渡邊一史
- 薬局長 渡邊久代
- 看護師長 前田裕子
- 事務局長 崎武巳
- 他職員 一同

奥尻町選挙管理委員会

- 委員長 小林賢三
- 他委員 一同
- 書記長 新谷順二

奥尻町農業委員会

- 会長 海老原浩
- 他委員 一同
- 事務局長 小山内政悦

奥尻町監査委員

代表監査委員

- 佐藤稟一
- 他委員 一同
- 事務局長 山崎和範



奥尻町議会議長 奥尻 敏也

町民一人一人の思いを一つに 次世代へ引き継ぐ「町」を目指して

町民の皆様、新年あけましておめでとうございます。

平成30年の年頭にあたり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、5月1日にバリアフリー化された大型新造船「カランセ奥尻」の就航や、大型客船の乗客が3回にわたり、900名ほど上陸するなど、観光客入り込み数は3万人を超え、観光面においては少なからず経済効果があつたように思われます。しかし島の産業の柱となる漁業においては、ウニの高値がありました。イカ漁やホッケ漁などは、近年の気象状況の変化などにより、漁獲量が低迷している状況にあります。あらためて磯根資源を守りながら安定的な水揚げができる養殖漁業などの割合を大きくしていくことが求められます。

また農業においては、稲作の作況は安定しており、ワイン用のブドウの収穫量は50トンを超えるなど明るい状況はありますが、素牛の価格の高止まりなどもあり、今後の状況を注視しながら、堅実な農業経営を営んでほしいと思っております。

昨年の4月1日から、奥尻中学校と青苗中学校の統合により、新しい奥尻中学校としてスタートいたしました。中高一貫教育の環境整備も整い、奥尻高校も島外からの島留学生の受け入れなど、これからの島を担う子どもたちが、のびのびとクラブ活動や学びに励み、大きく成長してくれるのを見守りながら応援して行きたいと考えております。

奥尻町は少子高齢化がこれからも続きますが、一人でも多くの後継者を育て、各産業の中心となる環境づくりを、国や北海道などと情報を共有しながら、行政や町民の皆様と一つになって、この厳しい



平成三十年 元旦

現状を乗り越えていければと思っております。そのために、町民一人一人の思いを一つにして、次世代へ引き継ぐためにも、これまで以上に町民皆様、執行機関との連携を密にし、活発な意見交換を重点に置きながら、より開かれた地方自治を目指していく所存です。

新しい年が皆様にとりましてより良い一年になりますよう心よりご祈念申し上げます。新年のご挨拶いたします。

奥尻町議会

副議長・総務産業常任委員・議会議長
青坂 賢二

総務産業常任委員長・広報編集特別副委員長・議会運営委員
齋藤 伸彦

議会運営委員長・総務産業常任委員
寅尾 裕志

総務産業常任副委員長・議会運営副委員長・広報編集特別委員
工藤 勇

総務産業常任委員
紀伊国 俊美

総務産業常任委員・檜山広域行政組合議会議長
水野 諭

総務産業常任委員・広報編集特別委員・檜山広域行政組合議会議員
松塚 政継

事務局長
山崎 和範

他職員 一同

確かな学力と

豊かな心を育てる

町民の皆様、あけましておめでとうございます。

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様には、日ごろ本町の教育振興に多大なるご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、歴史ある奥尻中学校と青苗中学校が町民の皆様に惜しまれつつ閉校し、統合した新しい「奥尻中学校」が奥尻高等学校敷地内に新設され、新たな教育環境を整えることができました。学校統合へのご理解とご協力を賜りました保護者、関係各位、町民の皆さまに心より深く感謝しているところであります。

さて、今年におきましても奥尻町教育大綱の教育目標に基づき、学校教育や社会教育のさらなる充実を図るとともに、時代の変化に対応した教育施策を展開してまいります。

学校教育関連におきましては、今年4月より小学校2校において、保護者や地域住民が学校経営に参画するコミュニティ・スクール(学校運営

協議会制度)を実施し、学校と保護者、地域住民との信頼

関係を深め、一体となって学校運営の改善及び児童生徒の健全育成に取り組んでまいります。

また、今年4月から道徳の教科化が始まり、小中学校の次期学習指導要領では更なる外国語指導強化が掲げられていくことから、児童生徒が英語に触れる機会の充実を図るため、外国語指導助手(ALT)の導入を継続し、児童生徒のコミュニケーション能力の育成と外国語教育の一層の充実を図ってまいります。

町立となりました「北海道奥尻高等学校」では、全道・全国から生徒募集を開始し、初年度は5名の島留学生が入学し、現在3名が島での学校生活を送っております。平成30年度の入学者の選抜に関しては、函館市教育委員会の協力を得て、市立函館高校において「委託受験」が可能になりました。

昨年より多くの島留学生に来ていただくことを期待しているところですが、人口流出と少子高齢化が進む中、未来を担う子どもたち

は大切な島の宝であり、将来の奥尻を創り、継続していく原動力となります。教育委員会の使命は、子どもたちに知識と教養を与え、自立と自律を促し、将来の指針を示すことであると考えております。子どもたちがたくましく成長することができるよう、効果的な施策を推進してまいります。

地域の皆様には、どうかこの子どもたちを地域全体で守り育ててくださるよう、お願い申し上げます。

また、幼稚園教育におきましては、新しい幼稚園教育要領が今年4月から実施されます。基本的には今までの幼稚園教育のよさを明確にするものとなっておりますが、幼稚園教育の基本を踏まえ幼稚園の目的の達成に資するため、幼児の生活全体が豊かなものとなるよう家庭や地域における幼児期の教育の支援に努めてまいります。また、定着してまいりました預かり保育も、子育て支援を図るため、継続してまいります。

社会教育関連では、青苗遺跡出土品の「土器・骨角器」119点について、学術的価値が極めて高いと認められ、昨年北海道指定有形文化財に指定されました。他の指定文化財を含めて、今後も文化財保護に努めながら郷土の歴史

を活かし、観光振興に生かしていく所存です。

海洋研修センター図書室においては、学校の図書活動との連携と共に幼児を中心とした「本の読み聞かせ」を町民ボランティアの協力を得ながら、引き続き活動の充実を図ってまいります。

生涯学習の充実と文化・スポーツ行事につきましても、「第8次奥尻町社会教育中期5力年計画」に沿いながら、町民のニーズにあった事業展開を図り、生涯学習や行事の環境づくりに引き続き努めてまいります。

皆様におかれましては、今後も教育行政に深いご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご多幸を心からお祈り申し上げます。

平成三十年 元旦

奥尻町教育委員会

教育委員 佐藤 康博

” 千田 真紀子

” 水野 展久

教育長 石島 孝司

事務局長 原 哲夫

他職員 一同